

# ILCで受け入れ態勢

## 盛岡商議所 観光国際委 初会合で具体策を検討

第1回盛岡商工会議(長)が3日、盛岡市清一ILC(国際リニアコ所観光国際委員会(委員)水町の同所で開かれた。12人の委員が出席、た提案内容などを協

議、来訪者の受け入れ態勢整備の具体策などを検討した。

1月のILC実現検討会議(議長・谷村邦久盛岡商工会議所会頭)で、同委員会が「外国語通訳アイテムなどコミュニケーションづくりに向けた取り組み、国際コンベンションなどの受け入れ態勢の整備」を研究テーマに取り組むことが決まり、9月末までに提案することになった。

第1回の同委員会で、北東北の拠点都市としての盛岡市が、これまで以上に国内外から注目が集まり、さらに多くの来訪者の増加が見込まれることを踏まえ、協議を行った。

具体的な取り組みとして▽サイン・案内板、道路標識などの整備▽ITを活用した情報の提供▽通訳ガイドの確保▽総合情報の発信と誘客事業の展開などが挙げられた。案内板では、既存の周辺案内板

の見直しや盛岡広域圏全体を網羅した新たな周辺案内板の設置など。国内外への施設や研究所の視察なども検討している。

ITに関しては、来訪者が携帯端末などを活用して関連情報が入手できるよう、情報提供システムの導入など。通訳ガイドでは、人材育成と確保、美術館や博物館、観光地、公共交通機関などにおいて、外国人目線に立つた共通ガイドラインの策定など。

同日は、ILC関連以外の活動として▽観光振興による中心市街地活性化▽スポーツ交流における観光客誘致▽ビクトリア、台湾など海外との民間レベルの相互交流を行うことを決めた。

川村委員長は「盛岡の観光産業化と国際化をもっと強化したい。いずれも、まちづくりともリンクする。関係団体や組織、委員会な

どと連携を図り、ILCの課題を着実に解決C実現に向けて一つ一つ話したい」と話した。

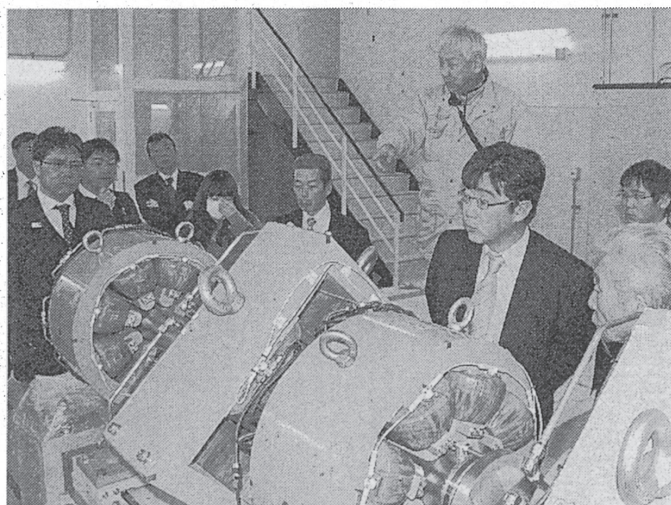
# 加速器産業に熱視線

## 県推進協議会



# 茨城で先進技術を視察

【茨城県東海村で報道部・八重樫慎之介】国際リニアコライダー（ILC）の誘致に向け、県ILC推進協議会（会長・谷村邦久県商工会議所連合会長）は18日、茨城県東海村の「いばらき量子ビーム研究センター」を視察し、開発中の加速器を見学した。県内の製造業者らが参加し、ILC計画に携わる研究者と懇談の19日まで加速器の部品開発や制御に求められる技術を確認し、関連産業への参入の可能性を探る。



開発中の加速器を熱心に見学する視察団＝茨城県東海村・いばらき量子ビーム研究センター

機械加工、製鉄、半導体製造などの企業、県や市町村などから約50人が参加。18日は、高エネルギー加速器研究機構（KEK、茨城県つくば市）名誉教授で東北大、岩手大客員教授の吉岡正和氏が施設の概要を説明した。

開発中の医療用小型加速器を見学。部品の切削、接合に高い技術が必要なほか、加速器にとって重要なのが冷却水で、0・1度の精度で水温を制御する必要があるという。

見学した加速器は事業費ベースで半額以上を中小企業が請け負っているといい、吉岡氏は「ILCをきっかけに、東北で新技術に取り組む企業の育成が急務。研究開発に大学や研究所も利用してほしい。県はしっかり仲立ちしないとけない」と指摘した。

医療機器の設置や点検などを行うアイウィック（盛岡市永井）の下斗米利一社長は「ILCの機械の設置や保守点検に関われないか関心があった。全てに高い精度が求められ、今から社員教育など人づくりが大事になる」と気を引き締めた。

釜石電機製作所（釜石市定内町）は、機械類の表面処理などで高い技術力を誇る。川崎栄専務は「各部品は表面を微細に調整していた。当社の技術が生かせるかもしれない」と

熱心に質問した。原子力関連機器などを製造する同村の関東技研も視察した。

19日はKEKを訪れ、ILC計画に向けて開発された加速器などを見学する。





ビームを加速させる金属部品の構造や加工技術について説明を受ける視察団＝茨城県つくば市

# KEK研究者と懇談

茨城で  
県推進協  
加速器施設を見学

【茨城県つくば市で  
報道部・八重樫慎之介】



国際リニアコライダー（ILC）計画への本  
県産業の参入策を探ろ  
うと、茨城県を視察し  
ている県ILC推進協  
議会（会長・谷村邦久  
県商工会議所連合会  
長）は19日、つくば市

の高エネルギー加速器  
研究機構（KEK）で  
研究者と懇談した。  
約50人が訪問。加速  
器の心臓部であるビー  
ム加速装置の製造施設  
や、ILC建設に向け  
た加速器の研究実験施  
設などを見学した。

KEKに加速器の部  
品を納入している中小  
企業の実例も紹介。特  
殊技術を持つ複数の企  
業がネットワークをつ  
くり、精度の高い製品  
を完成させていること  
が説明された。KEK  
名誉教授で東北大、岩  
手大客員教授の吉岡正  
和氏は「東北の企業が  
連合体をつくり、ぜひ  
ともILCに参入して  
ほしい」と呼び掛けた。

市前沢区）の千田雄二  
工場長は「金属加工や  
溶接は、既存の施設で  
できるものもあった。  
いかにコストを抑える

かが問題で、KEKか  
ら情報をもらい勉強し  
たい」と、今後の連携  
を見据えた。

千田精密工業（奥州

# 国際研究都市へ理解

盛岡商議所と  
県推進協 千葉・柏市を視察



【東京支社】国際リニアコライダー(ILC)建設実現に向け、盛岡商工会議所(谷村邦久会頭)と県ILC推進協議会(会長・谷村



公民学連携のまちづくりについて理解を深める参加者=千葉県柏市

会頭)は7日、国際学術研究都市づくりへの理解を深めようと、公民学連携でのまちづくりに先進的に取り組む千葉県柏市を視察した。同市は、大学と街が融合した「柏の葉国際キャンパスタウン」構想の下、自治体や東京大、千葉大、企業が連携してまちづくりを進めている。

三牧副センター長は連携について「アクセルをかけるのは企業の方が大きい」と説明し、さらなる教育拠点の誘致や主体的な市民参加を増やすことなど今後の課題として挙げた。岩手大工学部の南正昭教授は「行政主導ではなく、大学も含め多様な主体が折り合い進めていく形や、連携の仕掛けづくりができて

いる」と参考にしていく。

# 8委員会の活動活性化

## 盛岡商議所 I L C 実現へ提言も

盛岡商工会議所（谷村邦久会頭）では4月から、8委員会活動のさらなる活性化を図る。各委員会の計画も出そろい、独自の活動に加え、I L C（国際リニアコライダー）計画実現に向けた提言活動なども行つた。

8委員会の主な活動計画は次の通り。

▽総務政策委員会  
 会員増強運動の実施（年度内に、組織率32%を目指す）、スポーツ振興への取り組みなど。

▽中小企業振興委員会  
 I L C 建設を中心とした国家戦略特区構想の可能性に関する調査・研究、中小企業振興条例に関する研修など。

▽観光国際委員会  
 ビクトリア・台湾など海外との民間レベルの相互交流、I L C 関連施設周辺都市への視察、多言語支援についての関係機関への提言など。

▽まちづくり委員会  
 第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画の推進と対応、I L C 実現に向けてのまちづくりに基本構想と民間活力

を活用した開発手法についての研究、岩手医大附属病院移転に伴う対応など。

▽税制問題特別委員会  
 中小企業に役立つ税制の周知活動、I L C 研究者と家族が安心して暮らせる生活基盤やサービス支援など。

▽環境問題特別委員会  
 二酸化炭素削減の推進、I L C 建設促進

に係る環境に優しい街づくりなど。

▽盛岡ブランド創出特別委員会  
 短歌のまちもりおか推進事業、I L C を岩手ブランドとしてとらえられるような啓発方法の検討など。

▽産業育成特別委員会  
 6次産業化の研究・推進、I L C 関連産業の調査・研究など。

廣田淳同所専務は「8委員会はそれぞれテーマに沿い、調査・研究し、提言活動などを行つた。4月からの新年度は、各委員会では、さらに活発な活動を展開することになる。9月末までにはI L C 関連の調査がまとまる。新年度はI L C 実現に向けて、さらなる活動を押し進めたい」と話している。

# 6月盛岡で県民集会

## 県推進協 専門家3人が講演



県ILC推進協議会  
(会長・谷村邦久 県商  
工会議所連合会会長)  
は6月26日、盛岡市内

丸の県民会館で、国際  
リニアコライダー(Ⅰ  
LC)の建設実現を目  
指し、2014年度の  
ILC県民集会を開催  
する。リニアコライダ  
ー・コラボレーション  
(LCC)副ディレク  
ターの村山齊・東京大  
カブリ数物連携宇宙研  
究機構長ら専門家3人  
が講演。産学官民が連  
携し、県民の意識啓発  
などを強力に推進す  
る。同協議会が14日発表  
した。同集会は6月26  
日午後1時半から、県  
民会館中ホールで開  
催。村山機構長のほか、  
LCCが今後進めるプ  
ロジェクトを監督する

リニアコライダー国際  
推進委員会(LCB)  
委員長の駒宮幸男東京  
大素粒子物理国際研究  
センター長、ILC戦  
略会議議長の山下了同  
センター准教授が講演  
する。  
ILC建設実現に向  
けた県民決議の採択や  
産学官民の集会参加者  
による懇親会も開く。  
谷村会長は「ILC  
実現は東北を世界に発  
信するまたとない機  
会。ILCの理解と受  
け入れ態勢整備に向け  
て活動をさらに進めた  
い」と意欲を示す。  
14日は盛岡商工会議  
所(谷村会頭)のIL  
C実現検討会議も開  
催。8委員会の活動状  
況が示され、「外国人  
向けに多言語で表記し  
た案内板をすくなくても  
整備すべき」などの課  
題が挙げられた。  
各委員会の調査・研  
究内容は9月までに、  
同会議所の提言や意見  
として取りまとめる。



# 「オールいわて」で実現へ

## 県民集会で決議採択

### 盛岡で 県推進協 講演通し決意新た

国際リニアコライダー（ILC）の誘致を目指す県ILC推進協議会（会長・谷村邦久 県商工会議所連合会会長）は26日、盛岡市内丸の県民会館で「岩手の未来を拓く 公開ILC講演会（県民集会）」を開き、産学官民一体の「オールいわて」でILCを実現する決議を採択した。講演した研究者は、地元として研究産業拠点の計画案を早期に全国に示す必要性を指摘。出席者はILCの社会的役割や今後の取り組みを再確認し、新しい東北創造への決意を新たに示した。

【特集5面、関連記事30面】



ILC実現に向けた県民決議を採択し、産学官民が一体となり「オールいわて」で取り組むことを確認した県民集会=26日、盛岡市内丸・県民会館



東北誘致

自治体、経済界の関与も「政府の意思決定係者や市民ら約600人が出席。谷村会長は「ILCの実現で本県をどう変えていくかが重要で、新しい岩手の創造につながる千載一遇のチャンスだ。県民や東北が一丸となって行動することが大切になる」と強調した。来賓の千葉茂樹副知

事も「政府の意思決定に向けて関係団体と連携して要望活動を行うなど、県としても総力を挙げて取り組む」と強調した。出席者は、産学官民一体となり「オールいわて」でILC実現に向けて力強くまい進することや国への要望についての決議を満場一致で採択。▽誘致に関する方針を明確にし、資金分担や研究参加に関する国際調整を速やかに進める▽国主導のプロジェクトとして実現に向けた国内体制を

整えることを国に要望するとした。村山齊東京大カブリ数物連携宇宙研究機構長と駒宮幸男リニアコ

ライダー国際推進委員会委員長、山下了東京大素粒子物理国際研究センター准教授の3人が講演。山下氏は、本県の北上地（北上高地）を候補地として国際設計が始まったことを踏まえ、加速器関連企業のリストアップ、ILCによる地域発展の具体案▽地域経済効果の調査▽被災地への優先施策案の検討などが地元として必要と指摘。「地域の取り組みの具体像が全国に見えるようになれば広く理解を得られる」と呼び掛けた。同協議会は7月上旬、決議内容について政府や超党派のリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟（河村建夫会長）などに要